

2014 年度 小委員会活動成果報告

(2015 年 2 月 10 日作成)

小委員会名	換気・通風小委員会	主 査 名：甲谷 寿史 就任年月：2013 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (空気環境運営委員会)	委員長名：田辺 新一 主 査 名：山中 俊夫
設 置 期 間	2013 年 4 月 ～ 2015 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>・設置目的：換気、通風に関連した問題の中で、建築学会員の共同研究によって解明するのが適当と思われるトピックスについて議論し、必要に応じて研究グループを設けて研究を実施する。</p> <p>・2014 年度活動計画：各 WG の計画に基づいた活動を開始すると共に、書籍発刊やシンポジウムの企画について検討する。</p>	
委員構成 (委員名 (所属))	<p>委員公募の有無：なし</p> <p>主査：甲谷寿史，幹事：後藤伴延 委員：赤林伸一、飯野由香利、遠藤智行、大場正昭、清田誠良、倉渕 隆、竹林英樹、長谷川麻子、桃井良尚、山本佳嗣、吉野 博</p>	
設置 WG (WG 名：目的)	<p>(1) 学校空気環境改善 WG：学校における室内環境と省エネルギーについての研究・調査、実際の学校で実施可能な対策の提案</p> <p>(2) 自然換気設計 WG：自然換気に関する計算法・測定法、及び設計に関する最新手法・最新事例を整理</p> <p>(3) 気密性能 WG：気密性能に関する実態・研究の動向調査とデータベース作成、ガイドラインの作成</p> <p>(4) 建物換気理論 WG：換気計算法や換気測定法の基礎の整理と最新手法の整理及び「Building Ventilation」の翻訳書の出版</p>	
2014 年度予算	178,000 円	ホームページ公開の有無：なし 委員会 HP アドレス：なし

項 目	自己評価
委員会開催数	1 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	なし
講習会	なし
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会 承認企画	<p>1. 第 23 回空気シンポジウム「学校環境のサステナブルデザインと維持管理—子供たちが健康で快適に学習できる環境づくりのために—」 資料名：同上 参加者数 125 名</p> <p>2. シンポジウム「建物の気密性能を改めて考える—その実態と評価・測定法—」 資料名：同上 参加者数 55 名</p>
大会研究集会	なし
対外的意見表明・パ ブリックコメント等	なし
目標の達成度 (当初の活動計画と得ら れた成果との関係)	<p>1. 学校環境の維持管理についてのマニュアル公表に向けた最終校正と査読審査</p> <p>2. 実務者のための自然換気設計ハンドブックの英文翻訳の検討，最新の自然換気設計手法と事例の調査</p> <p>3. シンポジウム開催，建物気密性能に関する既往研究や諸外国における動向調査、データベース構築準備</p> <p>4. Building Ventilation の翻訳内容の検討及び基礎理論の調査</p>
委員会活動の問題点 ・課題	翻訳書の出版に係る著作権の問題

2014 年度 小委員会活動 自己評価

(中間年度評価 **最終年度評価**)

総合評価 (4段階評価)	A	B	C	D
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	<p>(1) 学校空気環境改善 WG</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標の達成度：シンポジウムを開催した。学校空気環境の維持管理に関するマニュアル公表に向けた最終校正を行い、査読審査を受けた。 ・WG活動の問題点・課題：予定よりは遅くなったが、成果公表の目途が立った。 ・WG活動の総合評価：A <p>(2) 自然換気設計 WG</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標の達成度：実務者のための自然換気設計ハンドブック英語版の出版を検討した。また、最新の自然換気設計手法と事例の調査を行った。 ・WG活動の問題点・課題：出版に係る財源の確保。 ・WG活動の総合評価：A <p>(3) 気密性能 WG</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標の達成度：シンポジウムを開催した。建物気密性能の実態、室内設備へ及ぼす影響、測定方法等に関する既往の研究や諸外国における動向の調査を行い、データベース構築の準備をした。 ・WG活動の問題点・課題：気密性能のデータベース、気密性能の予測法に関するガイドラインを作成する必要がある。 ・WG活動の総合評価：A <p>(4) 建物換気理論 WG</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標の達成度：Building Ventilation の和訳内容と基礎理論の確認を行い、訳本出版に向けた準備を行った。 ・WG活動の問題点・課題：原著出版元との交渉が不調となり、翻訳本出版を断念した。 ・WG活動の総合評価：B 			

- 総合評価は4段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
 - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
 - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から80%の達成度
 - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から70%の達成度
 - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。